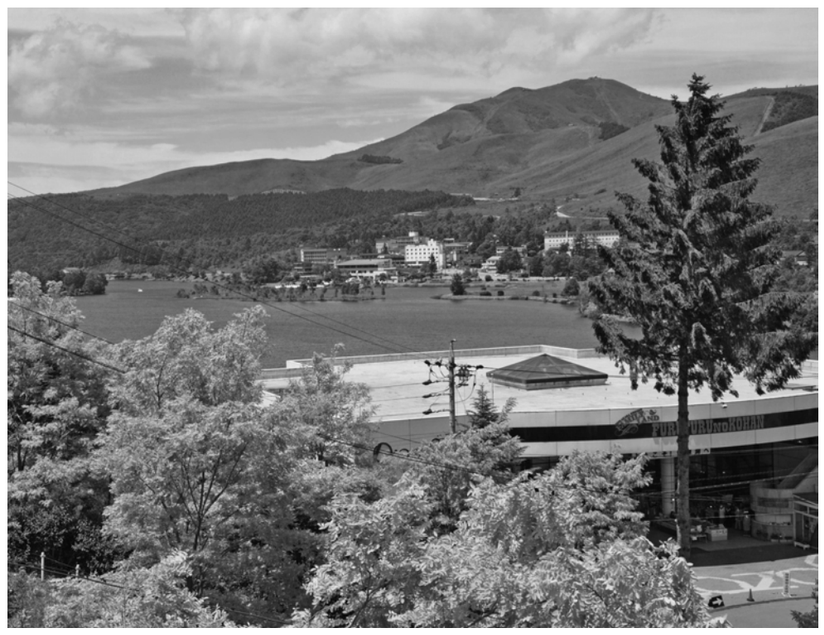
四季の体験フィールド

白樺リゾート観光協会

長野県茅野市の白樺湖は、四季それぞれに豊かな自然を体感でき、一方で洗練されたリゾート感覚の諸施設は安全と快適を兼ね備え、教育旅行に最適な体験フィールドを提供している。見学や体験のスポットを紹介する。


自然の懐に抱かれた白樺湖と白樺リゾート池の平ホテル＆リゾーツ

高原のリゾート性発揮

多彩なプログラムでコース作り容易

長野県は、スキー修学旅行の代表的な地域として知られている。また、茅野市の白樺湖一帯は、スキーだけでなく多彩なプログラムによって、年間を通した教育旅行先として注目されている。標高1500～1800㍍の大自然の懐に抱かれ、山や高原の木々が緑の萌えたつグリーン期、一面が真っ白な雪に覆われるホワイト期――四季折々にさまざまな表情をみせ、多様な体験ができる。一例をあげると、グリーン期には真夏でも清涼な空間や環境を生かした自然観察や自然体験学習、トレッキング、ホワイト期にはスキーやスノーボードが行える。スキー場は、池の平スノーパークをはじめ、しらかば2-in-1スキー場、白樺高原国際スキー場、車山高原スキー場、ブランシュたかやまスキーリゾートなどが点在し、初心者から上級者まで対応しており、生徒たちの習熟度に合わせてコースが選べる。

スキー修学旅行でにぎわうホワイト期のゲレンデ

見学と体験

白樺湖畔にある世界の影絵・きり絵・ガラス・オルゴール美術館は、藤城清治の影絵、辰巳雅章のきり絵、世界各地から収集したガラス工芸品や古典オルゴールを一堂に展示している。ここでは、影絵制作が楽しめる影絵体験教室も開かれている。近くには、蓼科テディベア美術館がある。

体験プログラムは、万華鏡制作体験（影絵美術館）、デコスイーツ・ジェルキャンドル体験（同）、陶芸教室（池の平ホテル内）をはじめ、湖畔から車で5～35分圏内に手打ちそば道場、紙すき体験教室、黒耀石体験ミュージアム、乗馬体験、田植え体験、鷹山ファミリー牧場、長門牧場、女神子湖スポーツ広場、体育館などがある。

また、日帰りでできる農村体験の「ほっとステイ」は、自然の中で生きる知恵を学ぶプログラムだ。日帰りといっても、事前学習として農村や農業、地域のことなどを調べて、体験先の農家にリポートや手紙を送るところから始まる。実際の農村体験、家人との昼食や交流、そして体験を振り返る事後学習まで、体験学習に欠かせない要素がすべて含まれている。

問い合わせは、白樺リゾート観光協会☎0266(68)3003、白樺高原総合観光センター☎0267(55)6201。

林業や畑仕事など農村体験で生きる知恵を学ぶ「ほっとステイ」

御泉水自然園　長野県が明治100年記念事業第一号として開設した。蓼科牧場からゴンドラリフトで約5分。蓼科山の中腹、標高1830㍍、総面積169㌶の自然園は、約300種類の高山植物と、50種類の野鳥たちの宝庫だ。

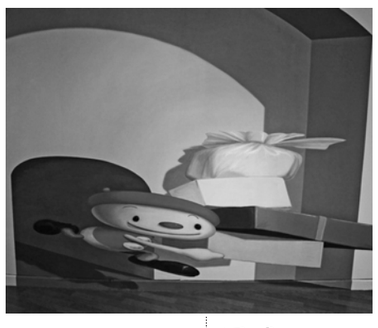
白樺湖　昭和22年、かんがい用温水のため池として、湿原地帯であったこの地を造成してつくられた湖。当時、白樺の枯木が湖上に林立していたことから白樺湖と名付けられ、現在に至る。標高1416㍍、周囲約4㌔㍍の白樺湖は、標高1925㍍の車山、2530㍍の蓼科山をひかえた広大な自然公園であり、高山特有の動植物を数多く見ることができる。

見て、撮って、学べる「トリックアート美術館」

那須とりっくあーとぴあ

錯覚を楽しく体験

平面の絵が飛び出したり、見る角度により違う雰囲気の絵に見えたりする「トリックアート」。その中心となる施設（常設館）が栃木県那須と東京都お台場にあり、中学・高校をはじめとする修学旅行で注目のスポットとなっている。作品を見たり、触れたり、写真に撮ったりして楽しめるのはもちろん、錯覚を実際に体験できる部屋や錯覚クイズの作品もあり、「美術や心理学について生徒の学習の参考になる」と、施設を運営するエス・デー（本社＝栃木県那須町）では多くの利用を呼び掛けている。


トリック坊やの変化（見る角度で姿が変化する）

栃木県那須町の「那須とりっくあーとぴあ」は、「トリックアートの館」（はてな）館「ミケランジェロ館」で構成された日本で最大のトリックアートテーマパーク。このうちの1館、トリックアートの館が6月13日にリニューアルオープンした。

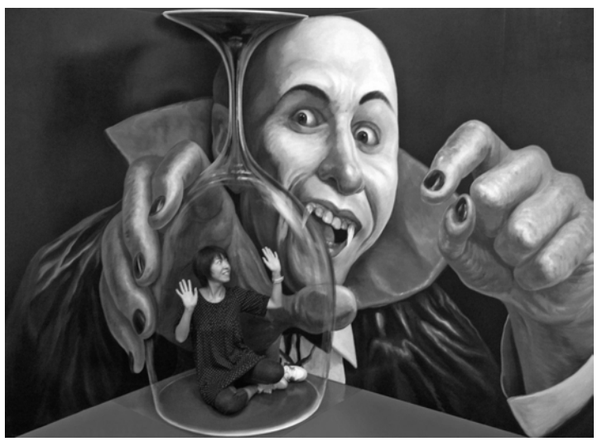
トリックアートの館は、ペンションを改装した建物の中に、約60種類のトリックアートのいたずらを隠している。複雑な構造が魅力の美術館だが、来館者がより快適にアートを体験できるように、通路の拡大や展示室の拡張を行った。改装部分には新たに制作した同館オリジナルの作品を配置。イメージキャラクターの「トリック坊や」の姿が見る角度で変化したり、館内の至るところで〝森の動物たち〟が出没するなどいたずら心のある演出をしている。

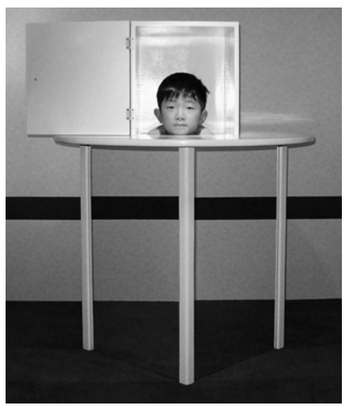
このほかトリックアート迷宮?（はてな）館は、「マジックの世界」をテーマにした展示。入った人の身長が変化して見える部屋や、首だけになった写真が撮れるテーブルなど、トリックを体験できる作品が豊富。

ミケランジェロ館は、ルネサンス芸術とトリックアートが融合した美術館。バチカンの有名な世界遺産「システィーナ礼拝堂」は日本最大の作品で、圧倒されるほどの迫力を感じる。

施設には制作スタッフたちがトリックアートの新作を創造する工房を併設。「感受性の高い中・高生に絵画にふれる楽しみを感じてもらいたい」と、制作の現場を直に体験できるように無料で開放している。

▽那須とりっくあーとぴあは、栃木県那須郡那須町大字高久甲上ノ台5760。☎0287（62）8388（代表）。（10～3月は午後5時まで、8月は午前9時から）。入場料各館大人1300円、小中学生800円（2館、3館共通チケット、団体割引あり）。


一番人気の〝ドラキュラのおやつ〟


〝マジックテーブル〟

自由に見学が可能なトリックアート工房

人気のお台場に開設

東京トリックアート迷宮館

東京・お台場にある「東京トリックアート迷宮館」は、江戸をテーマにした和風のトリックアートや人気作を展示する体験型の美術館。東京屈指の観光スポット、お台場の中心にあり、平日でも多くの一般客や修学旅行客でにぎわっている。7月5日にリニューアルを行い、人気の名作とともに最新作も楽しめる展示になっている。

迷路のような館内は、五つのテーマで構成。このうち「江戸エリア」は、江戸の宿場町や町人町を再現したエリア。まるで江戸時代にタイムスリップしたかのような感覚でトリックアートを楽しめる。

「怖くないお化け屋敷」エリアでは、どこか間抜けで憎めない表情をしたお化けたちが来場者を待ち構えている。ユニークなお化けとのツーショット写真が楽しめる。

このほか「トリックアート名作エリア」では、過去に発表されたトリックアートの人気作の数々を展示。3年連続で人気投票1位に選ばれた「ドラキュラのおやつ」はグラスの中に閉じ込められた演技をすることで、鑑賞者が絵画の中に入ったかのような写真が撮れる。「脳トレコーナー」では、見る人の脳を刺激する錯覚を使ったクイズ作品を展示している。

「グッズコーナー」には、トリックアートのオリジナルグッズや関連書籍がそろっている。

エンターテイメントやショップ、飲食店が入った複合施設「デックス東京ビーチ」（ゆりかもめ「お台場海浜公園」駅前）4階にある。

▽東京トリックアート迷宮館は、東京都港区台場1の6の1、デックス東京ビーチ4階。☎03（3599）5191。不定休で、午前11時から午後9時まで営業。入場料大人900円、中学生以下600円。